

山武経済センター 宮農指導員 伊藤 統之

播種については、条間90cm・株間8cmが基準となります。覆土は1.5〜2.0cm行い、鎮圧することで発芽率を良くします。

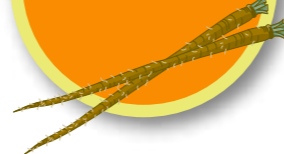
播種

ほ場の条件としては、ゴボウは湿害に弱いので、排水性・保水性が良いほ場を選択しましょう。
施肥量は、表②を参照してください。耕運は深耕を基準とすることで、根の生育がよくなり秀品性が高まります。また、播種床はなるべく高畝としてください。

ほ場の準備

ほ場の条件としては、ゴボウは湿害に弱いので、排水性・保水性が良いほ場を選択しましょう。
施肥量は、表②を参照してください。耕運は深耕を基準とすることで、根の生育がよくなり秀品性が高まります。また、播種床はなるべく高畝としてください。

短根ゴボウ



種子の準備

品種の選定に当たっては、品種特性を考慮して行ってください。管内では「こぼちゃん」、「てがる」といった品種が主に作付けされています。播種を行う場合、シーダーテープで行います。シーダーテープには、ホルセロン(土中の水分で溶けて発芽する。雨天時、使用不可)とメシロン(催芽播種ができ、乾燥時での発芽が安定)があります。

表② 施肥基準例

	肥料名	保証成分(%)	施肥量
基肥	里芋根菜ペレット	8-12-6	180kg
	苦土重焼燐	0-35-0	60kg
	粒状苦土石灰	アルカリ分55%	100kg

収穫

収穫の目安は、播種後100日程度となります。極端な収穫遅れは、本来の品質(柔らかさ・食感)が損なわれますので、播種時期を分散させて作付けの調整を行ってください。収量は、10㎡当たり800kg〜1000kgが標準となります。

播種後の管理

除草剤を使用する場合は、播種直後に行います。ただし、ゴボウは除草剤の薬害を受けやすいので、2度かけを行わないよう注意してください。
追肥を行う場合は、播種後一カ月(本葉4〜5枚)頃になります。病害虫防除は、表③を参照してください。

表③ 病害虫雑草防除例

病害虫雑草名	薬剤名	希釈倍率または使用量(10a当たり)	使用時期(収穫前日数)	総使用回数	備考
ネコブセンチュウ他	DC油剤	15〜20ℓ	作付けの10〜15日前まで	1回	
一年生雑草	トレフアノサイド乳剤	200〜300ml(100ℓ)	播種直後	1回	
ヒョウタンソウムシ類	トクチオン細粒剤F	6kg	収穫30日前まで	4回	株元散布
アブラムシ類	アグロスリン乳剤	2000倍	収穫14日前まで	5回	
黒斑細菌病	カスミンボルドー	1000倍	収穫14日前まで	3回	

1月の分析経過について	
残留農薬分析点数	多成分一斉分析 合計3点 葉玉ねぎ …………… 1点 キュウリ …………… 1点 サトイモ …………… 1点 (ちばエゴ)
	※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。
土壌診断点数	合計29点

成東経済センター 宮農指導員 宇井 文英

イチゴ



天敵を利用した害虫防除

イチゴで発生する多くの害虫の中で、特に問題になっているのがハダニです。ハダニは薬剤抵抗性の発達が著しいため、効果の高い薬剤は限られているのが現状で、薬剤以外の防除手段に対する関心はますます高くなっています。一方で、省力化や周辺環境への配慮から、化学農薬に頼らない天敵農薬を取り入れた総合的防除が進められています。
ハダニは主に葉裏に寄生して汁を吸うため、葉の色がカスリ状に白く抜けてきます。卵から成虫までの発育期間は、25℃では10日程度です。乾燥すると増殖が激しくなります。

天敵農薬の利用

① スパイデックス(チリカブリダニ)
チリカブリダニの最適温度は20〜25℃で、低温には比較的強いですが、高温には弱いのが特徴です。
基本的にはハダニしか食べないので、ハダニが発生してからでなければ導入できません(写真①、表①参照)。
② スパイカルEX(ミヤコカブリダニ)
ミヤコカブリダニの最適温度は25〜

32℃で、高温には強いですが、低温には比較的弱いのが特徴です。花粉やアザミウマの幼虫なども食べる多食性で、ハダニの発生前に導入することがポイントです(写真②、表①参照)。しかし、捕食量が少ないので、ミヤコカブリダニだけで防除するのは困難です。

天敵農薬の注意点

天敵農薬を利用する場合、ハダニ類の密度が高くなつてからでは効果が期待



写真② ナミハダニ(写真右)を捕食するミヤコカブリダニ(写真左)



写真① ナミハダニ(写真下)を捕食するチリカブリダニ(写真上)

表① 天敵農薬の使用例

品名	作物名	適用病害虫名	使用量
アフィパール※ (コレマンアブラバチ)	野菜類 (施設)	アブラムシ類	2瓶/10a (約1,000頭)
スパイデックス (チリカブリダニ)		ハダニ類	100〜300ml/10a (約2,000〜6,000頭)
スパイカルEX (ミヤコカブリダニ)			100〜300ml/10a (約2,000〜6,000頭)
ククメリス (ククメリスカブリダニ)		アザミウマ類	50〜100頭/株

(使用時期: 発生初期/使用方法: 放飼)
※アフィバンク(バンカープランツ)を同時に導入すると効果があがる。

できないので、天敵導入前までに殺虫剤でハダニの寄生密度を下げてから導入します。天敵導入後はなるべく農薬散布は行わないようにしましょう。
天敵導入後も被害が出るような場合は、天敵に影響の少ない農薬を選定し、スポット的に処理をします。
天敵を利用した害虫防除が成功すれば、殺虫剤の大幅な削減が可能となります。